

2004年出土の木簡



(鳴門海峡・由良)

- | | | |
|---|---------------|---|
| 1 | 所在地 | 兵庫県南あわじ市（旧三原郡南淡町）賀集立川瀬字
兵庫・嫁ヶ渕遺跡 |
| 2 | 調査期間 | 二〇〇四年（平16）五月～一〇月 |
| 3 | 発掘機関 | 南淡町教育委員会・三原郡広域事務組合教育委員会 |
| 4 | 調査担当者 | 定松佳重・谷口 梢 |
| 5 | 遺跡の種類 | 官衙跡・自然流路・水田跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 弥生時代・奈良時代・平安時代・中世 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 嫁ヶ渕遺跡は三原平野西
部に位置し、一〇〇m西を
大日川が北流する。調査は
下水処理場建設に伴うもの
で、二〇〇三年度に奈良時
代の掘立柱建物一五棟を確
認し、その規模・規格・配
置・方向と蹄脚円面硯の出
土から、国府成立以前の三 |

原郡衙関連施設で、同時に国府的機能も果たしていたと推測された。今回はその南側で調査を行なった。その結果、一三世紀後半の遺物を含む水田跡を検出し、その下層で時期の異なる流路を二本確認

原郡衙関連施設で、同時に国府的機能も果たしていたと推測された。今回はその南側で調査を行なった。その結果、一三世紀後半の遺物を含む水田跡を検出し、その下層で時期の異なる流路を二本確認した。調査区北部を蛇行しながら西流する溝五からは、弥生I様式末からII様式初頭までの土器と農具や木製品が多く出土した。

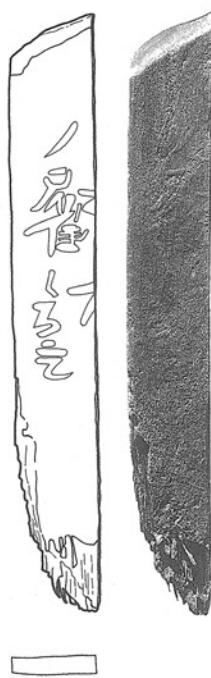
木簡は、調査区中央を東西に流れる溝一の下層部から出土した。溝一は、幅五m弱、深さ〇・九一・二mを測り、断面は逆台形で、一世纪の遺物を含む。木などの自然廃棄物がほとんど含まれず、掘り直しの状況が認められ、管理された人工路であろう。

8 木簡の釈文・内容



219×(30)×8 081

文字の痕跡がわずかに浮き上がつて残るのみである。あるいは呪符の類か。なお、釈読にあたつては、奈良文化財研究所史料調査室の方々のご教示を得た。



(赤外線斜光画像)